

'13年度第2四半期決算



2013.10.31 TOTO

目次

1. '13年度 第2四半期決算

2. '13年度 通期修正計画

3. '13年度 トピックスならびに下期活動

- 1) 国内住設事業
- 2) 海外住設事業
- 3) 新領域事業
- 4) TOTOVプラン2017の推進
- 5) 社会的責任投資での評価

**増収・増益決算、売上高・利益ともに過去最高
引き続き、国内住設事業がリモデル・新築ともに伸長、
売上高の増加とコストリダクションの効果により大幅増益**

売上:	4年連続の増収
営業利益:	4年連続の増益
経常利益:	4年連続の増益
当期純利益:	5年連続の増益

【国内住設事業】

- ・低金利や所得環境・消費者マインドの改善等に支えられ住宅市場が活況であることに加え、販売戦略と新商品効果によるシェアアップの継続により、リモデル・新築とも伸長

【海外住設事業】

- ・中国は不動産抑制政策の市況への影響が続いているものの、米国やアジア諸国の市況は回復基調にあり、海外住設事業全体では増収増益

【新領域事業】

- ・セラミック事業は半導体市場の回復や光通信市場の活況などを背景に大幅伸長
- ・環境建材事業はハウスメーカーにおける hidro テクト商品の販売などが好調

■P/L概要

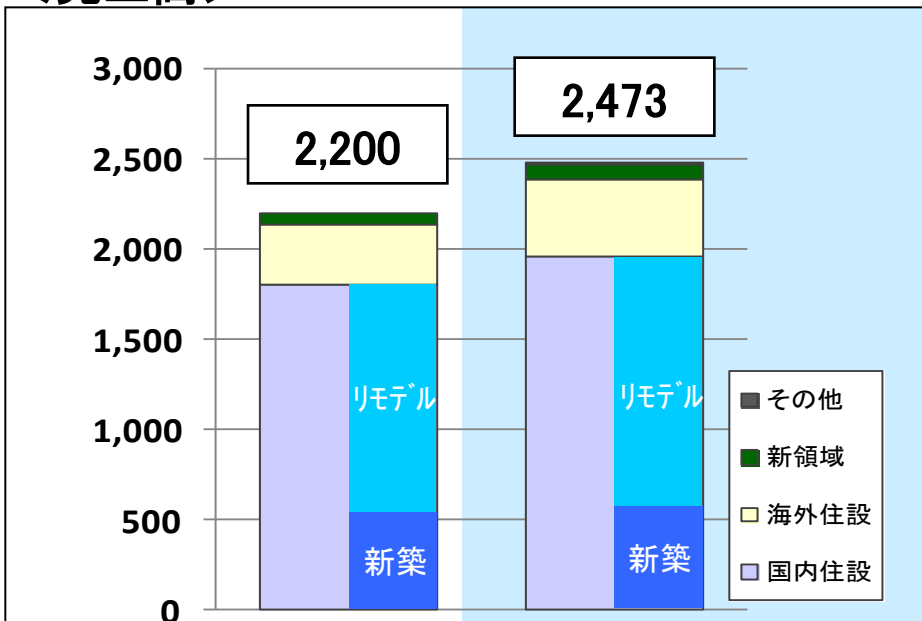
単位：億円(未満は切り捨て)

	'12/20 実績	'13/20		前年比増減 (前年比率)
		計画	実績	
売上高	2,200	2,465	2,473	+273 (+12%)
営業利益	63	130	152	+89 (約2.4倍)
経常利益	68	149	171	+103 (約2.5倍)
特別損益	▲ 11	46	48	+59
当期純利益	41	158	183	+142 (約4.5倍)

売上・利益ともに好調に推移し、計画を大きく上回った

■ 需要分野別売上高

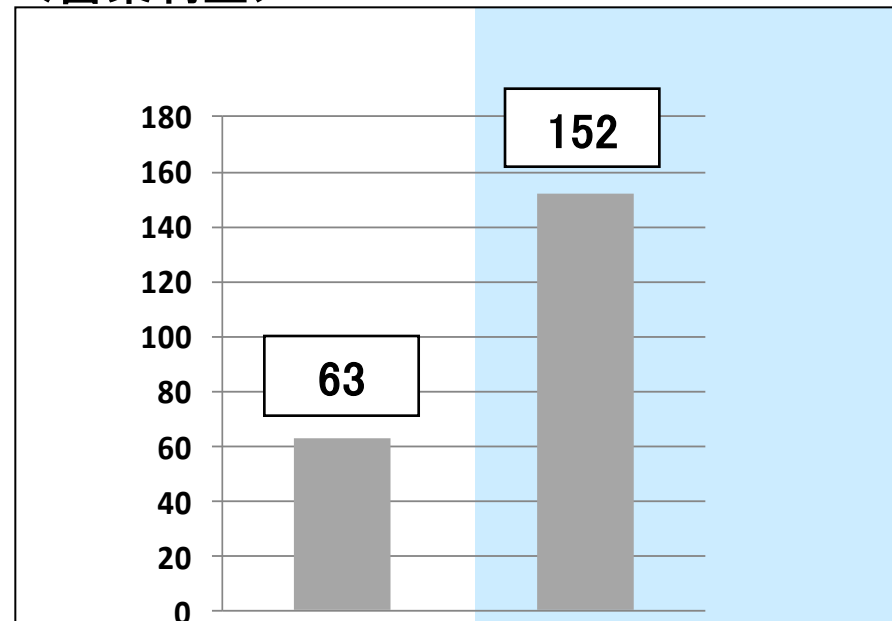
<売上高>



	'12/2Q	'13/2Q	前年比率(%)
国内住設	1,804	1,961	+9%
（リモデル）	1,224	1,331	+9%
（新築）	579	630	+9%
海外住設	330	428	+30%
新領域	64	82	+26%
その他	0	1	+13%

<営業利益>

単位：億円（未満は切り捨て）



	'12/2Q	'13/2Q	前年比増減
国内住設	63	128	+65
（リモデル）	53	106	+53
（新築）	10	22	+12
海外住設	34	50	+16
新領域	▲ 20	▲ 9	+11
その他	▲ 13	▲ 17	▲ 4

国内住設事業を中心に全セグメントで伸長、利益は大幅増益

■国内住設事業の商品別業績

単位：億円(未満は切り捨て)

	売上高		
	'12/2Q	'13/2Q	前年比率(%)
レストルーム計	711	756	+6%
水栓機器			
浴室			
キッチン・洗面			
バス・キッチン計	956	1,054	+10%
その他計	180	204	+13%
合計(調整前)※	1,848	2,016	+9%
国内住設合計	1,804	1,961	+9%

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。

すべての商品で増収

■海外住設事業の市場別業績

■現地通貨ベース		売上高			営業利益		
	通貨	' 12/2Q	' 13/2Q	前年比率(%)	' 12/2Q	' 13/2Q	前年比増減
米州	百万ドル	104.8	114.4	+9%	0.1	4.0	+3.9
中国	億元	14.0	14.0	▲0%	2.7	2.7	▲0.0
アジア	百万ドル	75.1	74.9	▲0%	3.8	7.3	+3.5
欧州	百万ユーロ	12.0	13.8	+16%	▲ 3.1	▲ 2.8	+0.3

■日本円ベース

米州	億円	83.1	112.8	+36%	0.1	3.9	+3.8
中国	億円	175.6	223.9	+28%	34.3	43.1	+8.8
アジア	億円	59.6	73.8	+24%	3.0	7.1	+4.1
欧州	億円	11.8	17.7	+50%	▲ 3.1	▲ 3.5	▲0.4
計	億円	330.2	428.4	+30%	34.3	50.6	+16.3

為替前提	1ドル	79.3	98.6
	1元	12.6	16.1
	1ユーロ	98.7	128.5

海外住設事業：増収増益（日本円ベース）。 米州：市況は回復基調、生産性向上もあり、増収増益。
中国：不動産抑制政策の市況への影響が続き前年並み。アジア：製造拠点の生産性改善により増益。

■ 営業利益の増減益要因(前年差異)

単位:億円(未満は切り捨て)

増減要因		'13/2Q		
プラス 要因	コストリダクション	従前のコストリダクション	+21	+39
		Vプランコストリダクション	+18	
	リモデル売上高の増加		+38	
	新築売上高の増加		+13	*
	海外住設損益		+16	
	新領域事業損益		+11	
	減価償却方法基準変更		+20	
	その他		+9	*
マイナス 要因	原材料の値上がり		▲14	
	Vプラン投資		▲6	
	販売強化投資		▲11	
	労務費関連の増加		▲20	
	普及品市場(ホリウムゾーン)拡大のための対応		▲6	
合計		+89		

* 来年度消費税増税等に伴う前倒し影響:約12億円

目次

1. '13年度 第2四半期決算

2. '13年度 通期修正計画

3. '13年度 トピックスならびに下期活動

- 1) 国内住設事業
- 2) 海外住設事業
- 3) 新領域事業
- 4) TOTOVプラン2017の推進
- 5) 社会的責任投資での評価

国内住設事業において、リモデル・新築とも、
予想を上回り好調に推移したことなどにより、通期計画を上方修正。
売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに過去最高の計画。

【国内住設事業】

- ・リモデル・新築ともに想定以上の伸長が続いた上期の実績を踏まえ、
売上高を前年比+9%に上方修正。

【海外住設事業】

- ・製造拠点の生産性改善やコスト削減等もあり、営業利益を上方修正

【新領域事業】

- ・見通しに変更なし

■P/L概要

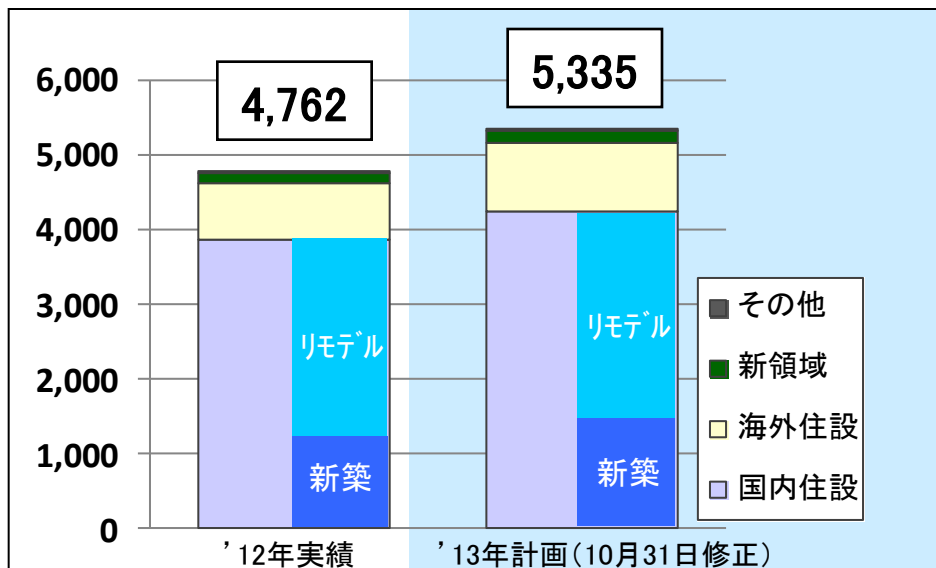
単位：億円(未満は切り捨て)

	'12年度 実績	'13年度計画		前年比増減 (前年比率)	'14年度 計画 ('12.4発表)
		前回計画	修正計画		
売上高	4,762	5,230	5,335	+573 (+12%)	5,200
営業利益	233	333	390	+157 (+67%)	300
経常利益	260	355	409	+149 (+57%)	
特別損益	▲ 36	53	53	+89	
当期純利益	169	324	370	+201 (約2.2倍)	

'13年度は売上高・利益ともに過去最高を見込み、'14年度計画を前倒し達成

■ 需要分野別売上高

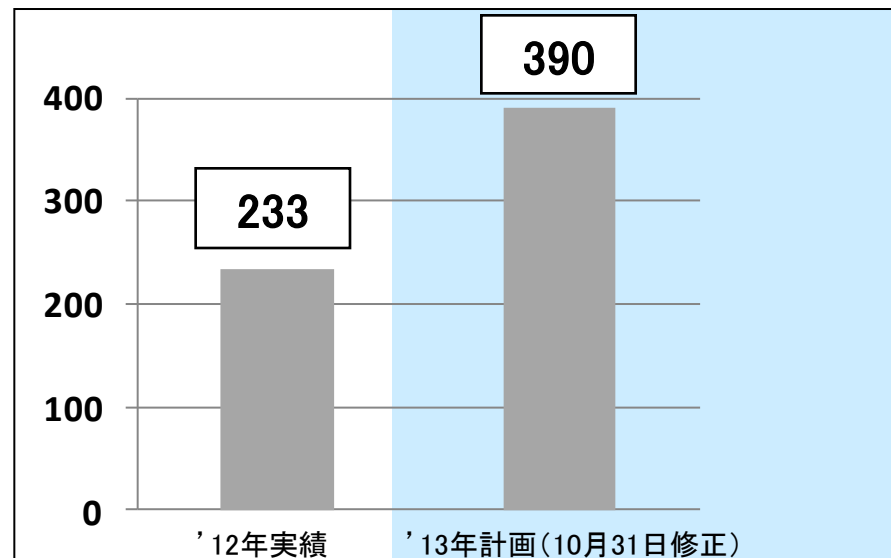
<売上高>



	'12実績	'13計画		前年比率 (%)
		前回予想	修正計画	
国内住設	3,868	4,127	4,228	+9%
(リモデル)	2,581	2,775	2,822	+9%
(新築)	1,286	1,352	1,406	+9%
海外住設	751	914	919	+22%
新領域	141	184	184	+31%
その他	1	2	2	+21%

<営業利益>

単位: 億円 (未満は切り捨て)



	'12実績	'13計画		前年比増減
		前回予想	修正計画	
国内住設	216	264	318	+102
(リモデル)	182	223	262	+81
(新築)	34	40	55	+21
海外住設	81	113	118	+37
新領域	▲ 35	▲ 12	▲ 12	+23
その他	▲ 28	▲ 32	▲ 34	▲ 6

国内住設事業(リモデル・新築とも)が好調に推移したこと等により上方修正

■国内住設事業の商品別業績

単位：億円(未満は切り捨て)

	売上高		
	'12実績	'13計画	前年比(%)
レストルーム計	1,483	1,605	+ 8%
水栓機器			
浴室			
キッチン・洗面			
バス・キッチン計	2,044	2,253	+ 10%
その他計	436	477	+ 9%
合計(調整前) ※	3,963	4,336	+ 9%
国内住設合計	3,868	4,228	+ 9%

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。

すべての商品で増収計画

■海外住設事業の市場別業績

■現地通貨ベース		売上高			営業利益		
	通貨	'12実績	'13計画	前年比(%)	'12実績	'13計画	前年比
米州	百万ドル	206.6	224.1	+8%	3.8	10.1	+6.3
中国	億元	29.1	31.1	+7%	5.7	6.0	+0.3
アジア	百万ドル	163.2	167.1	+2%	9.5	18.0	+8.5
欧州	百万ユーロ	23.2	30.1	+29%	▲ 7.9	▲ 4.2	+3.7

■日本円ベース

米州	億円	178.8	219.5	+23%	3.2	9.8	+6.6
中国	億円	404.3	497.4	+23%	78.6	96.2	+17.6
アジア	億円	141.2	163.7	+16%	8.2	17.6	+9.4
欧州	億円	26.6	38.4	+44%	▲ 9.0	▲ 5.3	+3.7
計	億円	751.1	919.2	+22%	81.1	118.4	+37.3

為替前提	1ドル	86.6	98.0
	1元	13.9	16.0
	1ユーロ	114.7	128.0

各地域ともに増収増益の計画

■ 営業利益の増減益要因(前年差異)

単位: 億円(未満は切り捨て)

増減要因		'13計画		
プラス 要因	コストリダクション	従前のコストリダクション	+ 40	+77
		Vプランコストリダクション	+ 37	
	リモデル売上高の増加		+ 85	*
	新築売上高の増加		+ 31	*
	海外住設損益		+ 37	
	新領域事業損益		+ 23	
	減価償却方法基準変更		+ 40	
	その他		+ 9	*
マイナス 要因	原材料の値上がり		▲42	
	Vプラン投資		▲20	
	販売強化投資		▲27	
	労務費の増加		▲38	
	普及品市場(ホリウムゾーン)拡大のための対応		▲18	
合計		+ 157		

* 来年度消費税増税等に伴う前倒し影響: 約40億円

■ 配当

	'12年度実績	'13年度計画
中間	6.0円	10.0円
期末	8.0円	10.0円
年間計	14.0円	20.0円

■ 自己株式の取得・消却

7月31日会社開催の取締役会において決議した自己株式の取得・消却は下記のとおり終了しました。

■ 自己株式の取得 ※10月7日終了

自己株式7,875,000株を取得しました。株式の取得価額の総額は9,999,786,000円です。

■ 自己株式の消却 ※8月9日付

普通株式17,700,000株を消却しました。これにより、資本剰余金が約2.2億円、利益剰余金が約99億円、自己株式が約101億円それぞれ減少しています。

配当は通期で20円の計画。自己株式の取得・消却を実施

目次

1. '13年度 第2四半期決算

2. '13年度 通期修正計画

3. '13年度 トピックスならびに下期活動

- 1) 国内住設事業
- 2) 海外住設事業
- 3) 新領域事業
- 4) TOTOVプラン2017の推進
- 5) 社会的責任投資での評価

■販売好調な商品

トイレ
NEOREST
20th
Anniversary

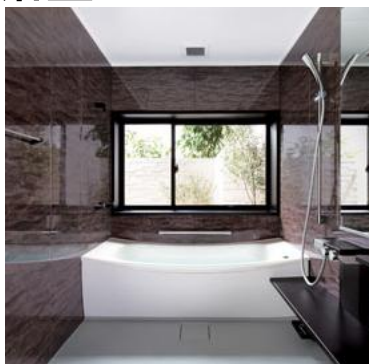


ネオレスト
ハイブリッドシリーズAH/RH

TOTOタンクレストイレ 20年の歴史

- ・ハイブリッドエコロジーシステム
で3.8L/回洗浄
- ・便器きれい機能で便器を
除菌

浴室



システムバスルーム
「sazana(サザナ)」

使いやすさと美しさを追求、
『気持ちよさ』にこだわった
バスルーム

- ・ゆりかごに包まれるような
新感覚の「クレイドル浴槽」
- ・柔らかい踏み心地の
「ほっकारリ床」
- ・「魔法びん浴槽」
- ・「エアインシャワー」

キッチン



システムキッチン「GRASSO」(クラッソ)

人の動きと水の流れにこ
だわったシステムキッチン

- ・幅広 シャワーの
「水ほうき水栓」
- ・すべり台を降りるように
流れる「すべり台シンク」

洗面所



洗面化粧台「オクターブ」

デザインと使い勝手の
両立を図った化粧台

- ・直線基調のメリハリのある
デザイン
- ・「すべり台ボウル」
- ・ヒーターなしで曇らない
「エコミラー」

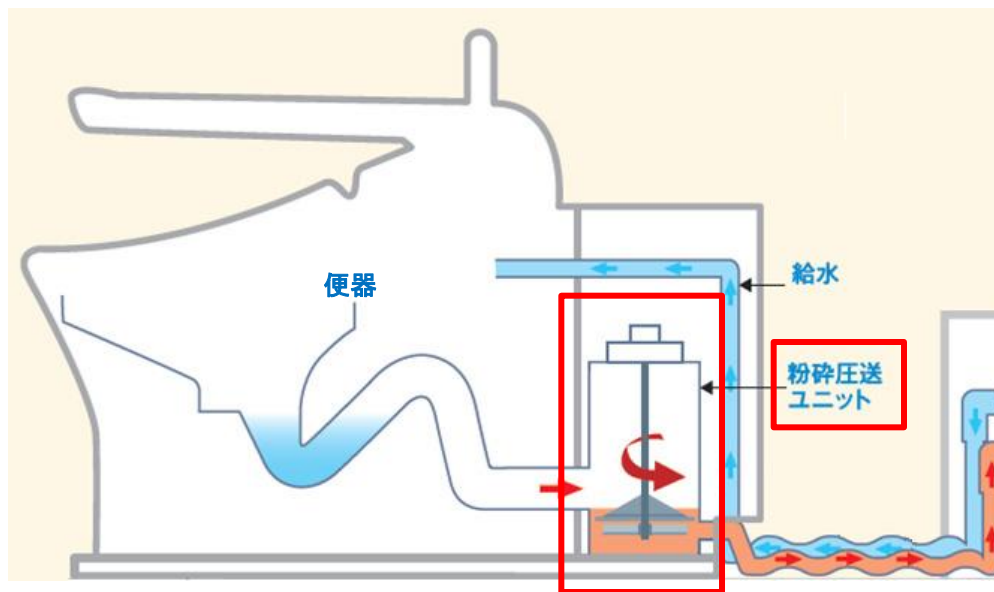
住宅市場の活況を背景に、主力商品が好調。

■ 新商品「ベッドサイド水洗トイレ」(9月30日発売)



- ・新開発の「粉碎圧送ユニット」搭載の水洗トイレ
- ・居室ベッドサイドに後付設置可能で移動可能
- ・要介護者の自立促進や、介助者の負荷軽減が期待できる

《ベッドサイド水洗トイレの仕組み》



今後の超高齢社会を見据えた新商品「ベッドサイド水洗トイレ」を発売

2) 海外住設事業：中国・米州

■中国事業

- ・上期は経済は緩やかな回復傾向も不動産抑制政策の市況への影響が続く
- ・下期は市場の緩やかな拡大傾向を予測

《四半期(3ヶ月)毎売上高の前年同期比》下線は計画

	1Q (3ヶ月)	2Q (3ヶ月)	3Q (3ヶ月)	4Q (3ヶ月)	通期計 (12ヶ月)
'12	+14%	+11%	+1%	+1%	+6%
'13	▲11%	+10%	<u>+13%</u>		<u>+7%</u>

- ・北京、新疆などの内陸部を含む全土でショールームの出店や改装を推進。



■米州事業

- ・市況は緩やかな回復傾向
- ・ロサンゼルス直営ショールームをリニューアル(8月)



中国：不動産抑制政策の市況影響が続く中、変動する市場に対応し活動継続
 米州：商品優位性や価値伝達により、ブランド価値の向上・他社差別化を図る

2) 海外住設事業：欧州・アジアオセアニア

■アジア・オセアニア事業

・台湾

- ・新技術を搭載した「ウォシュレット」「シャワー」で他社との差別化を図り、ブランド価値を更に高める

・ベトナム

- ・市況は回復の兆し
- ・国内販売強化にむけた代理店、販売ルートを再構築中

・タイ

- ・'13年7月それぞれのブランド価値を訴求することを目的として、建材メーカー「The Siam Cement Public Company Limited」との資本・販売提携解消
- ・今後も製品の調達は継続し、良好な関係維持
- ・新たな販売及び生産体制の構築中

・インド

- ・新工場('14年稼働予定)建設は順調に進捗
- ・販売網も計画どおり拡大中

■欧州事業

- ・引き続き販売チャネルを構築中
- ・温水洗浄便座市場を開拓
- ・ウォシュレット一体形便器「ネオレスト」など節水性能とデザイン性の高い商品で他社差別化
- ・ホテル改築時の提案活動を強化



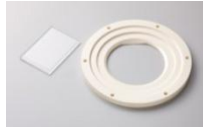
地域ごとの事業環境に対応することで増収増益を目指す

3) 新領域事業

■セラミック事業

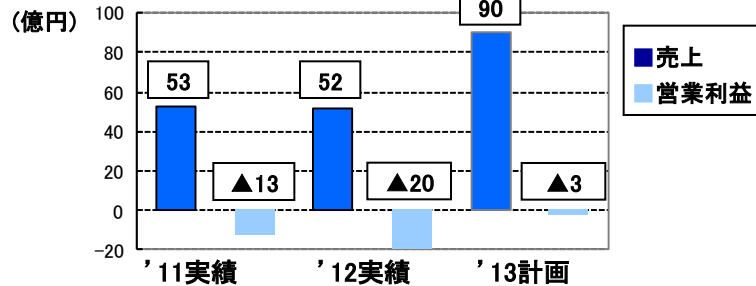
需要回復と新商品効果で販売好調

- ・狙いの市場における課題解決提案にて確固たるポジションを確立。新商品と生産体制の強化により、販売拡大。
- ・世界規模の展示会へ積極参加。半導体マーケットにTOTOの存在感をPR



AD(エアロゾルデポジション)コーティング部材

参加展示会例 SEMICON WEST 2013
SEMICON TAIWAN 2013



■環境建材事業

重点分野に注力し、売上を拡大

■ハイドロセラ

- ・'13年上期売上高:前年比113%(壁・床) 新商品投入の壁材大幅伸長中

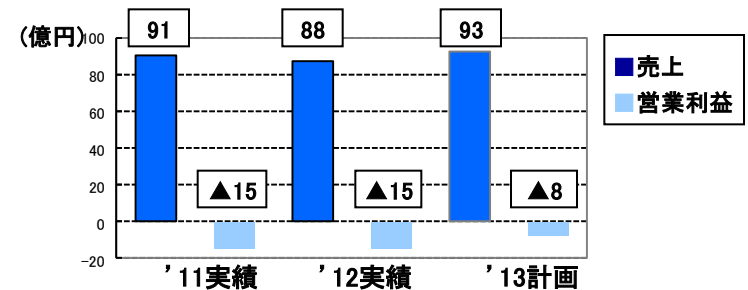
■BtoB(国内・海外)

- ・ライセンスパートナー「Casalgrande Padana S.p.A.」が中心となり、イタリア「CERSAIE (チェルサイエ) 2013」へ出展。



■外装

- ・新築着工持ち直しを背景にハウスメーカー向けが好調。



■燃料電池

燃料電池の心臓部である発電モジュールにおいて、当社のオンリーワン技術であるセラミック製発電セル(SOFC)及び発電モジュールの製造・開発を推進し、早期事業化を目指す。

セラミック事業:半導体市場の回復や光通信市場の活況を背景に新商品効果で好調
環境建材事業:新設住宅着工の持ち直しを背景にハイドロセラ壁材新商品等が好調

4) TOTO Vプラン2017の推進

■ サプライチェーン革新事例：物流革新

第1ステップ

輸送体制の改革

- 煩雑な輸送ルートを整理
「シングルパス
ロジスティクス」構築
 - ・複雑なルートを集約し、
中継ターミナルを廃止
- 輸送方法見直し
集約輸送体制へ変更
 - ・トラック輸送
→トレーラー+フェリー

第2ステップ

物流センター作業の改革

- リードタイム「ゼロ」体制の
確立
出庫作業
従来：1.5日 → 0.5日

第3ステップ

業界全体を見据えた改革

- 2012年度～
キッチン協同配送開始
(クリナップロジスティクス
株式会社)
- 包装改革
 - ・包装のコンパクト化
 - ・詰合わせの効率化 等
- 調達物流
事業部単独調達から
全社最適調達へ
- IT技術による配送効率化
検討中

物流リードタイム(全拠点平均) 3.9日⇒2日

'13年度 年間コストリダクション
約22億円(累計・年間ベース)見込

物流革新では、次世代ビジネスモデルの構築を目指していく

5) 社会的責任投資での評価

■3年連続でダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI World)に選定

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM

- ・Building Products (建設製品)分野において最高得点を獲得
- ・最高ランクの「ワールド部門」で3年連続の選定。

調査対象は世界約2,500社、今年度は333社
(うち日本企業21社)がWorldの構成銘柄として選定。
(このインデックスに基づき、金融商品総額約70億ドルが運用されている。)

■エティベル投資ユニバース・PIONEERに初選定



- ・持続可能な有力株式銘柄「EXCELLENCE」340社
(うち日本企業60社)の中の1社として選出
- ・その中からさらに優れた銘柄である「PIONEER」113社
(うち日本企業23社)の中の1社として初めて選定

社会的責任投資ではグローバルレベルでの評価を獲得
“真のグローバル企業TOTOへ”さらなる進化を続けていく

このプレゼンテーション資料は、2013年10月31日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO